

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	こどもヶ丘保育園根岸園
活動日時	令和7年3月7日(金)
クラス名(年齢)	ぱんだ組(3歳児)
年間テーマ	光

1.活動テーマ

〈テーマ〉

太陽光と人工光での見え方の違い

〈テーマの設定理由〉

前回まで素材による人工的な光の変化の違いを楽しんだ。

今回は太陽の光に当て、光り方の違いがあるのかどうかを試す。

2.活動スケジュール

9名参加。蛍光クレヨンに水を溶かし、光の変化を観察する。

室内にて、セロファンを人工光に当て、光の変化を見る。

散歩先で、同じ素材の物を太陽光に当て人工光との違いを見る。

3.環境をデザインする

(室内) ブラックライト、水槽、ペットボトル、セロファン

(戸外) 散歩先にセロファンを用意する。

4. 探求活動の実践

〈活動内容〉

部屋の電気をすべて消し、ブラックライトで天井や壁、床、水槽、ペットボトルにブラックライトを当てる。

蛍光灯にセロファンを当て、光の変化を見る。

散歩先にて、同じセロファンを用意し、太陽光に当てる。

〈活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり〉

子どもの言葉・姿	写真
・保育者がペットボトルに光るクレヨンを入れてみる。 保育者「光るかなー？」 子ども「いっぱいいたら光るんじゃない？」「まぜてみたら？」 ・保育者が室内を暗くし、子ども自身がブラックライトで照らす。 保育者「何が見える？」 子ども「あれ？光っているのがあるよ？(カラーセロファンを入れたペットボトル)」「見て！気づいちゃった！光ってるの！(光るクレヨン)」「ペットボトルに光当てたら(壁)緑になったよ！紫にもなった！」「魔法のクレヨンは光るけどそれじゃないのは光らない」「下から照らしたら海みたいだよ」 ・ブラックライトの光を2人で協力して重ね合わせる。 「2人で照らしたら紫になったね。」「気づいたことあった。ここライトがある」(カラーセロファンに光が反射し気づく) 「白いところを照らしたら光ったよ」(白い素材がよく光ることに気づく) ・保育者がカラーセロファンで虹を作る。懐中電灯、ブラックライトを当ててみる 子ども「当ててもかわらないねー」「虫眼鏡前やった時は色ついてたよー」 保育者「お外に持って行って太陽の光とライトの光どんな風に見えるかわかってくるか実験してみようか」 子ども「眼鏡も持っていこう！(カラーセロファンで作った虫メガネ)」 ・戸外にダンボールにカラーセロファンを貼った物を持っていき太陽光との違いを比べる。 虹色のカラーセロハンが貼られた物を持った子が「らーらーらー、にじがにじが」と歌い始める。 保育者「虹が出来たね。」「びっくりな歌だね。」 ・子ども「先生、みてみて。うつった。」 保育者「本当だ。お部屋と違う？」子ども「違う。」 保育者「どう違う？」子ども「もっと緑になった。」 ・子ども「重ねてみよう。」保育者「色変わった？」 子ども「変わらなかった。」	   

5.振り返り(振り返りによって得た保育者の気づき)

・前日も光り方への興味関心が高かったので、ブラックライト用のクレヨンを小さくカットし、水を入れたペットボトルに入れる実験を行った。水にクレヨンは溶けず、ブラックライトを当てると固形部分のみ光る結果となったが、実験後、ペットボトル(水+カラーセロファン)にブラックライトを当てて壁に映る光に興味を見せる姿があった。

・レゴブロックや着ている服にブラックライトを照らし、子どもが作った物以外に光る物があるか探し始めたので、様子を見ながら場所を廊下に変えて光探索に切り替えた。実験をきっかけに光への興味が広がったように感じる。

戸外では太陽の光にセロファンを当てて、光の変化を楽しんだ。同じセロファンの色でも、太陽光では色が違って見えることに気付いていた。セロファンの角度や高さを変えながら、地面に写る光が変わることを子ども達が工夫して楽しんでた。